

第二話 「心と肉体と経済と」 関連の参考講話 短編集

一、自然破壊の末に——酸素不足

(ページ 「末法の世」 参照)

このままでいったら、この地球上はもつとおかしくなりますよ。人間は、そのうち本当に大変になりますね。

人間というものは、もつと自然というものに関心を持たなくてはいけないですよ。自然がなくなったら、人間は死んじゃうんですよ。そうですね、生きていられませんよ。

今、木をどんく切る。空気中の酸素は二一%ありますね。この二一%の酸素の三分の一は、大体、南方の密林で造られる訳です。

ところが、その密林を、実はもう、半分位切っている訳です。

私はね、電車に乗っているんな処に旅をするでしょう。そうしたら、何処でもペッ

トボトルで水やジュースを飲んでいる光景を見るんですね。電車の中でも、歩きながらでも飲んでる人が多いですよ。

昔は、こんなの見事なかつたんですよ。私は最近、よくこれが眼に入ってしまう。私はあれを見ていてね、「あつ、人間……次は酸素ポンベを持って歩くようになるんじゃないかな」と思っているんですよ。水じゃなくて酸素——そうなると思いますよ。あの水が携帯用の酸素ポンベに代わるんじゃないかと思ってるんですね。いや、絶対代わりますよ。それだけ酸素が少なくなってきた。

今は、「水不足だ」なんて言ってる騒いでいる処もありますけどね。これは水だから、まだいいですけどね。水が無くなったら移動すればいい訳でしょう。

よく昔からの処で、「ここに文明があつたのに、突然、住んでいた人間が消えてしまった」なんていうのがありますが、あれは水が無くなったからですよ。

それで、そこにいた民族が移動して行く訳でしょう。全部いなくなった訳じゃないでしょう。中には、病気が蔓延して潰れた国もありますけど、大体は水ですよ。

しかし、酸素はそういう訳にはいかない。

私はフツと思うんですよ。恐ろしくなりましたよね。それが知らずくのうち、そういう事をやるようになってくる。

ですから今、自然を壊したから、酸素が少なくなってきた、病気になってる人、一杯いるでしょう。病院に行っても分からない病気の人、酸素ボンベ買ってきて吸ってご覧なさい、病気が治ってしまう人いるから——。

そういう事、沢山あるんですよ。まあ、そういう事は中々分からないですよね、これは眼には見えませんからね。

よく高橋先生が仰っていたように、見えない世界（次元の違う世界）から、物凄いものが出て来て、人間がおかしくなるように、おかしくなるようにやっているんですよ。皆さん、観えてご覧なさい、厭になってしまいうから——。

そういうものが、何か観えてくる訳ですね。そのぐらい、私達の知らない処で、知らないものが動いている訳です。

その中のほんの小さな処（物質界）に人間がいて、ウワーッって欲望を持ってやっているんです。

そうしたら、人間一人くが、本当の事を分かって、本当の生活をしなかったら、幾ら肩書きあっても、お金があっても、身体が丈夫であつても、どうなるんですしう。——そういう事ですね。

それで私達は、本当に自分の肉体を通して、見たり聞いたり験したりする為に、何時間と言う時間を持たされて、今いる訳ですよ。これを大事にしなくてはいけないです。すね。

簡単ですよ、私の話——。（笑）私がやった事ですから、誰にでも出来ますよ。しかし、やる気が無ければ駄目ですね、これは——。

人間として、生きていくという事は、どういう事か——それを発見しなかったら生まれてきた価値がない。学校に行つて勉強して、地位・名誉・財産を手に入れても何にもならない。——そうでしょう。

「一体、何だったんだろうな……」と、何かそういう疑問を持ったままで、この世を終わってしまうと思えますよ。やはり自分を大事にしましょう。

私が言っている事は、自分で「何故だろう？ 何故だろう？ どういう事だろう？」

と追求していったら、心の中から全部出て来た事なんですよ。しかし、まだ分からない事は多いですね。私は学問をやった訳ではないですからね。

ところが、人間の心の中には、そういうものを誰しもが持っているんじゃないでしょうか。それをみんな引き出していかないだけなんですよ。

一九九五年六月